

消化器内科専門医に聞く

消化器内科部長

あたらし よしなり
新敷 吉成



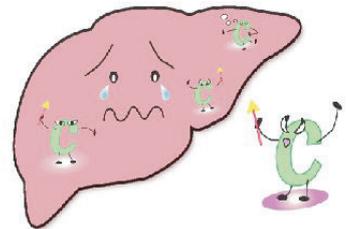
C型肝炎について



C型肝炎は『21世紀の国民病』といわれ、全国に150～200万人の感染者が存在するといわれています。日本赤十字血液センターの調査（1995年から2000年）では、C型肝炎ウイルスの感染率は、30歳代で0.8%、40歳代で1.3%、50歳代で1.8%、60歳代で3.4%と報告されています。魚津市の人口を42,000人としますと、C型肝炎の感染者は600人以上と推算されます。

C型肝炎は血液を介して感染する病気です。輸血など過去の医療行為が主な感染の原因です。感染してもほとんど症状がありません。70%の人が慢性化して、約30年で肝硬変に進行し、40年で癌が発症（肝癌）することが知られています。肝臓は『沈黙の臓器』といわれるように、かなり進行しないと症状が出ません。進行した肝硬変や肝癌となってから見つかることも少なくありません。

C型肝炎の治療は2014年に飲み薬だけの『インターフェロンフリー治療』が登場して以来、5年間で劇的にかわりました。従来のインターフェロン治療（注射）に比べて副作用が少ないこと、効果が非常に高いことが特徴です。当院でもこれまで40人以上の患者さんが治療を受けられ、90%以上C型肝炎ウイルスの排除に成功しています。最新の治療薬では8週間の内服で97～100%の有効性が認められています。本年に入り、これまで治療が受けられなかった重症の肝硬変に対する新薬も登場しました。正にC型肝炎は治せる時代になりました。



今後の問題は、気づかずに治療を受けないでいるC型肝炎に感染した方を早期に発見することです。それには、ウイルス肝炎検査を受けていただくほか方法はありません。富山県ではウイルス肝炎検査は各厚生センター、指定された医療機関で、無料で受けることができます（当院でも行っております）。1992年以前に輸血や手術を受けた方、肝機能障害を指摘されたことがある方、1994年以前にフィブリノゲン製剤を投与された方、入れ墨をしている方、C型肝炎の患者さんのご家族の方は特に感染のリスクが高いと考えられます。

これまで肝炎検査を受けたことのない方は、まず検査を受けてください。

富山労災病院のウイルス肝炎の診療は、日本肝臓学会専門医の私と、富山大学大学院客員教授で肝臓学会評議員、指導医の高原照美先生（木曜日の午後外来）とで行っております。赴任して10年となりましたが、これからも肝臓病、消化器病の診療を充実・発展させていきたいと考えています。

発行：独立行政法人労働者健康安全機構富山労災病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。

【連絡先】0765(22)1280(病院代表)

E-mail: chiki2@toyamah.johas.go.jp